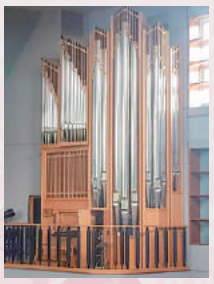
パイプオルガンを日常に L

～心揺ぶる音色～

水木順子さんは弘前市出身のパイプオルガニスト。東京藝術大学を卒業後、ヨーロッパでパイプオルガンの歴史や文化を学ばれました。現在は東奥義塾高等学校のパイプオルガン奏者、NHK カルチャーのフランス語講師、弘前大学の非常勤講師を務めています。パイプオルガンと歩む人生について伺いました。

―パイプオルガンとの出会いはいつですか？



私は聞こえた音をピアノで弾くことが好きで、4歳からピアノを熱心に練習していました。10歳の頃、カセットテープで初めて耳にしたパイプオルガンの不思議な音色に衝撃を受け、パイプオルガンに惹かれました。今でも心に残る当時の音色は、私の心の支えになっています。

―フランスでの留学生活はいかがでしたか？

日本はパイプオルガンにあまり馴染みがないため、触れる機会もほぼありませんでした。「よくわからないもの」に飛び込み、未知なる世界を体験すべくパイプオルガンの浸透しているフランスへ留学しました。パイプオルガンを通して本当にしたいことを見つけるための留学でしたが、現地の生活では清濁、新旧が混在するパリに惹かれた以上に、直感的に感じる「なにか」がありました。

―パイプオルガンの魅力を教えてください。

パイプオルガンは大きさや音色、演奏される空間などによって性格が変わります。異なる地域で歳月を経て創られた音色は、地域の人々の趣向が反映されており、聴き比べると面白いですよ。パイプオルガンの音色を日本では演奏会などで聴く印象がある一方、フランスでは誰もが自由に出入りする教会で心を落ち着かせ礼拝をする中、いつも感じることができます。パイプオルガンが日常に溶け込む感覚を日本でも味わえたら素敵ですよね。私の演奏では、空間に響く音から全身に伝わる波動によって皆さんの心に何らかの感情が湧き起こると嬉しいです。

日本であまり馴染みのないパイプオルガンですが、その音色は何にも代えがたいものです。水木さんの演奏を聞き、パイプオルガンの世界へ足を踏み入れてみませんか。

（2年　諫山莉奈、齋藤祐紀）

こんなことにもチャレンジ!!

今回でリーフレットは記念すべきvol.10を迎えました！ デザインやレイアウトを工夫し、表紙はパリのエトワール広場（凱旋門のある広場）をイメージしたものになっていますので、是非注目してみてください！

また、弘前グローカル・アクションでは新たにクラウドファンディングに挑戦しました！ 以前から好評をいただいている手回しオルガンをより市民の手の届きやすい存在にし、今まで以上に皆さんの側で音色をお届けしたいと考え、団体オリジナルのものを作製することに！

新型コロナウィルス感染症で多くの方々が元気を失っていますが、手回しオルガンの音色で、少しでも皆様に勇気や希望を与えることができればと思っています。「人と人」、「弘前と“世界”」をつなぐ第一歩として、弘前グローカル・アクションは活動して参ります。今後とも温かいご支援・ご協力よろしくお願いします。

クラウドファンディング実施期間
2020年9月2日～10月31日
https://camp-fire.jp/projects/view/292056

ご案内

タイトル横に L（Lマーク）がついている記事は弘前大学フランス語ホームページでロングバージョンを公開しております。掲載ページは右のQRコードよりアクセスできます。

ロングバージョン掲載ページ

弘前大学フランス語ホームページ
Plece de la Francophonie/「フランコフォニー広場」
→http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/french/

新着情報・おすすめ情報はTOPページで一目瞭然！
Twitter・Facebookへも、サイドバーから簡単にアクセスできます。

ホームページ　弘前グローカル・アクションHP

編集：弘前大学人文社会科学部2年　白鳥 芳明
プロジェクトの正式名称：複言語・複文化教育プロジェクト（フランス語モデル）

「令和2年度弘前市市民参加型
まちづくり1%システム」対象事業

Vol.10
Tu sais, j'ai trouvé!

あのね、見つけた！

弘前の中のフランスを探そう！

「弘前×フランス」プロジェクト　弘前グローカル・アクション 発行

「弘前×フランス」の交流 L

～フランスから見た弘前～

弘前大学に在籍するフランス・ポルドーからの留学生のマチュー(Mathieu)さん、ファニー(Fanny)さん、カロル(Carole)さん、ニコラ(Nicolas)さんの4人にカフェテラス・ケララで取材をしました。

―フランスの店と何か違いはありますか？

フランスに比べて、肉、ヨーグルト、チーズ、ワインが高いです。日本のチーズはあまり味がなくて子供用のチーズみたいです(笑)。魚や寿司、ラーメン、カップラーメン、みそ、しょうゆ、ウイスキー、日本の米は安いです。

実はフランスでは、ダイやイトのが安くて、普通に食べていますが、日本の米はプザートとして使われています。Riz au lait（リ・オ・レ）と言って、日本の米と牛乳を混ぜて作ります。おいしいです。店のオリジナルBGMも面白いです。フランスではラジオが流れています。

▲ニコラが作ってくれたRiz au lait(リ・オ・レ)

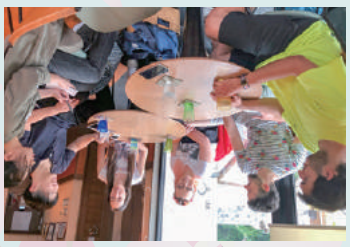
―一番好きな場所はどこですか？

岩木山があります。岩木山はとてもきれいです。どこからでも見えます。

あと、リンゴがとてもおいしいです！そして道も綺麗で、静かで暮らしやすいです。津軽塗りや津軽三味線、ねぶたなど、津軽の芸術、文化は本当にすごいです！

でも、今年はコロナのねぶた祭りや桜まつりが見れなかったのでまた弘前にきて、見たいです！

―弘前の好きな場所はどこですか？



岩木山が見えるところ。

―弘前公園です！自然が豊かで、お城も綺麗です。久渡寺も好きです。途中で景色を見ながら行きます。土手町も賑やかで良いところです。

―弘前でよく行く店は？

近所のスーパーマックによく行きます。冬は灯油を買うためにホームセンターにもよく行きました。

―フランスの店と何か違いはありますか？

そうですね、日本にはテラスがない店が多いです。あってもとてもいさいです。フランスでは室内よりテラスの方が広いです。100人以上座れるテラスもあります。あと、日本は料理が一気に出てきます。フランスでは前菜、メインディッシュ、デザートと順番に出てきてゆっくり食べれます。

―レストランも日本とは違いますか？

留学生と交流してみないとわからない新しい発見がたくさんあり、弘前とフランスのスケールの違いや、今まで気付かなかった弘前の魅力を知ることができました。また、いくつか改善点も見えてきました。私たちの手で弘前をより魅力的で暮らしやすい素敵な街に変えていきましょう。

（2年　白鳥芳明・三橋礼奈・Zhu Ruoxi）

―弘前でまだ慣れないことはありますか？

スーパーなどで値段が税抜きで表示されています。レジで買うときに高くなってしまうので、今でもたまに混乱します（笑）。あと、ごみの分別がとても細かくて大変です。

―最後に、弘前の不便な点、改善した方が良い点があったら教えてください。

弘前は歩道が狭いです。歩道がない場所もたまにあって危ないです。外に灰皿やごみ箱が少ないのも少し不便です。バンブルックや観光所にフランス語表記やスペイン語表記が少ないので増えたら良いと思います。

日本とフランスの PLAQUES D'EGOUT 比べてみた！

PLAQUES D'EGOUT（プラック・デグー）とは、フランス語で「マンホールの蓋」を意味します。

日本ではマンホールはしばしば地域の特徴があらわれます。そこで、フランスのマンホールはどうなのかと思い、4人の留学生、フランスに帰った元留学生のアナイス（Anaïs）とエティエンヌ（Etienne）に協力してもらい、フランスのマンホールについて調べました。

実はフランスには、日本のように各地でマンホールの絵が違うというのは全くないようで、あったとしても市章が小さく書かれているくらいなのだそうです。そのため、フランスでは、どこのマンホールもほぼ同じようなデザインなのです。

留学生曰く、フランスでは、日本のマンホールが綺麗だと知っている人は一定数いるそうです。留学生の皆も日本に来た際、綺麗で印象的だったので、写真もたくさん撮ったそう。「場所によって個性的なデザインがあるのは素晴らしいと思う」、「日本のマンホールを見たとき、綺麗で驚いた」など好印象でした。

これらは弘前のマンホール。弘前のイメージキャラクターであるたかれくんや特産品のリンゴ、市章の卍が書かれています。弘前市の中にも色々な種類のマンホールがあります。

左からセルネー（Cernay）、ボルドー（Bordeaux）、ラ・ロシェル（La Rochelle）のマンホール。特に目立った違いはありませんね。

（2年　白鳥芳明）